

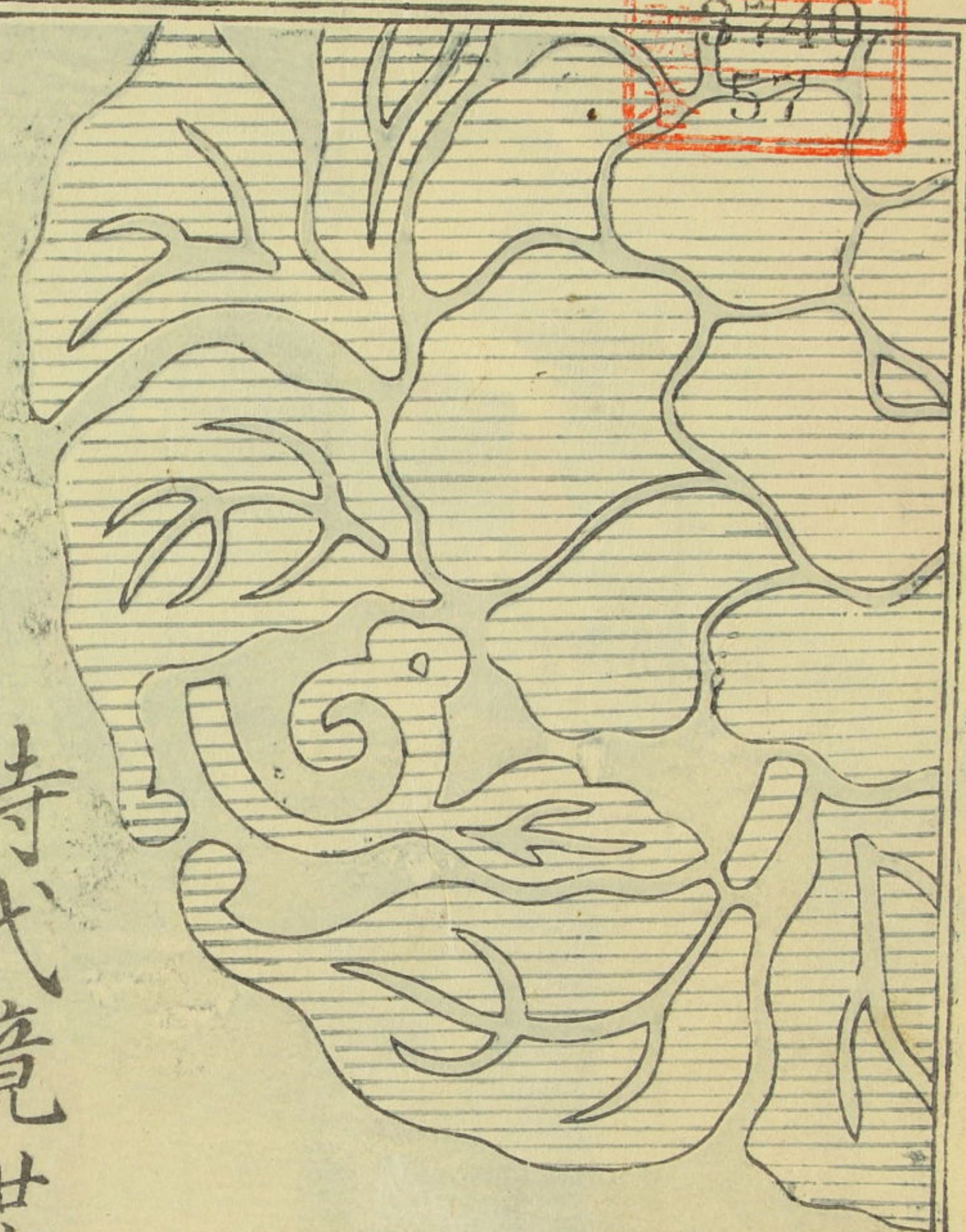
鏡
時
代

廿九編上

~ 13
3740
57



門へ13
3740
57



時代鏡廿九編上

為永
喜水作
歌川
國貞画
若林
文庫

一



机下小遊る友あり或は横を叱りて曰く
本傳廿六編小春辰刈根の
許りては妖林の
道に花を面見
後難免れ
白地罪
を謝を
然るは
今這編の
のう那岳ケ
嶽の弟子が渠
等の隠事を倚聴ら
注進做んとするつゝ忽地蝶妖の

三國越次郎

術とてそと命と断不賢く有右奇術の
 あらまをばかると花江も立刻断
 たりけ誣うささ難き後予いふ不
 听を首もち掉り弁口二を
 のぞ知りてそのて知らざる評多
 一基女術の左道中て警
 年往る野下る愚民を蟲
 魁とて一介の弟子師
 匠の悪事と訴えて自か栄利
 をのぞいふまは悲し入る
 張のてかの妖蝶の形不駭
 き下り絶ざる夏も
 わんか婦徳をる
 つ花江もど
 争つ邪術不
 命と朱

歌妓
 真鬱





年十九

四



